

CS こひつじ科礼拝式次第

2022年7月31日 午前9時30分

2022年度年間テーマ：「イエス様の祈り『主の祈り』によって、祈ることを身につけよう」

テーマ曲：ワワワいっしょに（92番）

暗唱聖句：「神は、その独り子をお与えになったほどに、世を愛された。独り子を信じる者が一人も滅びないで、永遠の命を得るためである。」
ヨハネによる福音書 3章16節

5, かみさまは（こどもさんびかをお用いください）

おいのり 礼拝に招かれたことを感謝しましょう

せいしよ 創世記 22章1～19節

これらのことの後で、神はアブラハムを試された。神が、「アブラハムよ」と呼びかけ、彼が、「はい」と答えると、神は命じられた。

「あなたの息子、あなたの愛する独り子イサクを連れて、モリヤの地に行きなさい。わたしが命じる山の一つに登り、彼を焼き尽くす献げ物としてささげなさい。」

次の朝早く、アブラハムはろばに鞍を置き、献げ物に用いる薪を割り、二人の若者と息子イサクを連れ、神の命じられた所に向かって行った。三日目になって、アブラハムが目を凝らすと、遠くにその場所が見えたので、アブラハムは若者に言った。

「お前たちは、ろばと一緒にここで待っていなさい。わたしと息子はあそこへ行って、礼拝をして、また戻ってくる。」

アブラハムは、焼き尽くす献げ物に用いる薪を取って、息子イサクに背負わせ、自分は火と刃物を手に持った。二人は一緒に歩いて行った。イサクは父アブラハムに、「わたしのお父さん」と呼びかけた。彼が、「ここにいる。わたしの子よ」と答えると、イサクは言った。

「火と薪はここにありますが、焼き尽くす献げ物にする小羊はどこにいるのですか。」

アブラハムは答えた。

「わたしの子よ、焼き尽くす献げ物の小羊はきっと神が備えてくださる。」二人は一緒に歩いて行った。

神が命じられた場所に着くと、アブラハムはそこに祭壇を築き、薪を並べ、息子イサクを縛って祭壇の薪の上に載せた。そしてアブラハムは、手を伸ばして刃物を取り、息子を屠ろうとした。

そのとき、天から主の御使いが、「アブラハム、アブラハム」と呼びかけた。彼が、「はい」と答えると、1御使いは言った。

「その子に手を下すな。何もしてはならない。あなたが神を畏れる者であることが、今、分かったからだ。あなたは、自分の独り子である息子すら、わたしにささげることを惜しまなかった。」

アブラハムは目を凝らして見回した。すると、後ろの木の茂みに一匹の雄羊が角をとられていた。アブラハムは行ってその雄羊を捕まえ、息子の代わりに焼き尽くす献げ物としてささげた。

アブラハムはその場所をヤーウェ・イルエ（主は備えてくださる）と名付けた。そこで、人々は今日でも「主の山に、備えあり（イエラエ）」と言っている。

主の御使いは、再び天からアブラハムに呼びかけた。御使いは言った。

「わたしは自らにかけて誓う、と主は言われる。あなたがこの事を行い、自分の独り子である息子すら惜しまなかつたので、あなたを豊かに祝福し、あなたの子孫を天の星のように、海辺の砂のように増やそう。あなたの子孫は敵の城門を勝ち取る。地上の諸国民はすべて、あなたの子孫によって祝福を得る。あなたがわたしの声に聞き従ったからである。」

アブラハムは若者のいるところへ戻り、共にベエル・シェバへ向かった。アブラハムはベエル・シェバに住んだ。

おはなし

「信仰を訓練する天の父」

若月道子先生

アブラハムさん100歳とサラさん90歳の間に、神様が約束された子どもイサクが産まれました。誰も想像することの出来ない事を、神様は、可能にしてくださったのです。2人は喜びました。そして、3人の家族の生活が始まったのです。3人は神様が与えて下さった今をととても感謝して生活していました。しばらくして、神様は、またアブラハムさんに語り始めました。「アブラハムよ！」その声は、聞き覚えのある神様のお声でした。アブラハムさんは、「はい」と返事をしました。すると神様は、「あなたの息子、あなたの愛する独り子イサクを連れて、モリヤの地へ行きなさい。わたしが命じる山に登り、わたしを礼拝するために、その子を生けにえとしてささげなさい。イサクをあなたの手で殺し、焼き尽くして、その命を私にささげなさい。」信じられないお言葉です。アブラハムさんは、耳を疑いました。私を愛して下さいている神様が「何故だ?」「神様のおっしゃる意味がわかりません。神様嫌です」ということも出来ません。アブラハムさんは、神様のおっしゃる事を正しく理解することはできなかつたと思いますが、神様のお言葉に従うことにしました。なぜなら、アブラハムさんは、神様に愛されている事を疑うことがなかつたからです。

薪をひろいイサクに背負わせ、自分は刃物と火種を持ってでかけます。イサクさんと一緒に歩いて行くと、イサクさんが献げものの小羊がないことに気が付きました。「お父さん献げものの小羊はどこにあるのですか」と、問われます。アブラハムさんは、「小羊は、神様が備えてくださいます。」と応えます。さすがに、ここであなたを献げるとは言えません。

いよいよ、その場に着きました。祭壇を築き薪を並べイサクをしばってそこに寝かせます。

先生は、このところを読んで不思議に思ったのは、こんなに長い距離を荷物を持って歩ける子が、お父さんに縄で縛られて黙っていることです。「お父さん何をするんですか?止めてください。」と反発する力もあつたと思います。しかし、イサクさんはそれをしなかつた、アブラハムさんの信仰を感じとつたのだと思います。100歳の男、90歳の女に与えられた子どもが死んだとしても、死者の中から生き返らせてくださる、神様にできないことはない信じて、刃物を振り下ろそうとしました。

その時、「アブラハム!アブラハム!」と天の御使いの声がしました。「その手を下すな!

よく分かつた。あなたは自分の独り息子さえ主に献げることが惜しまなかつた。」後ろを見ると、木の茂みに一匹の羊が角を取られているではありませんか、アブラハムさんは神様の備えて下さった羊を捕まえ、イサクさんの命の代わりに、その羊を献げて、主を礼拝したのでした。

神様がアブラハムさんの信仰をためされたのです。彼の息子イサクさんが神様の約束の子であることを忘れさせないためです。

私たちに与えられている契約は、イエス様によって結ばれた新しい契約です。神様が独り子を十字架につけてまで、私たちを罪から救い、アブラハムさんの祝福しようとするものです。私たちもアブラハムさんのように、神様を信頼する者となりましょう。

* 小さなお子さまには、話の内容等をわかりやすく、年齢に合わせて噛み砕いてお話くださいますようお願い致します。

(けんきん) 会堂2階掲示板下の机に献金箱を設置しました。

おいでの際におささげください。

68、イエス様についていこう (こどもさんびかをお用ください)